

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(3ヶ月以上1年未満)

2018年6月6日

東京大学での所属学部・研究科等:	教育学部	学年(プログラム開始時):	学部3
参加プログラム:	全学交換留学	派遣先大学:	University College Dublin
卒業・修了後の就職(希望)先:			
<input checked="" type="checkbox"/>	1. 研究職	<input type="checkbox"/>	2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
<input type="checkbox"/>	3. 公務員	<input type="checkbox"/>	4. 非営利団体
<input type="checkbox"/>	5. 民間企業(業界:)	<input type="checkbox"/>	6. 起業
<input type="checkbox"/>	7. その他()		

派遣先大学の概要

ユニバーシティカレッジダブリン(以下UCD)は、学生数22000人を誇るアイルランド最大の総合大学です。アイルランド国立大学の一つで、アイルランドの首都ダブリンの郊外に位置しています。作家のジェームズジョイスもこの学校の卒業生です。

留学した動機

とにかくどこかに留学したい、というよりは、アイルランドという国とその文化を勉強することが目的でした。二年生の時、アイルランド音楽サークル「UT-Fuaim」で部長を務め、アイルランド音楽に触れていく中で、この国についてもっと勉強してみたい、現地で音楽がどのように伝承されているかを見たい、と思っていた折、全学交換留学の提携校のなかにアイルランドがあることを知ったのが留学の動機です。

留学の時期など

①留学前の本学での修学状況:	2018年	学部3	年生の	A2	学期まで履修
②留学中の学籍:	留学				
③留学期間等:	2018年	1月~	2018年	5月	
	学部3	年時に出発			
④留学後の授業履修:	2018年	学部3	年生の	S2	学期から履修開始
⑤就職活動の時期:	2019年	学部3	年生の	3月頃に	
⑥本学での単位数:	留学前の取得単位			32	単位
	留学先で取得し、本学で単位認定申請を行う単位			30(東大では12単位に換算)	単位
	留学後の取得(予定)単位			30~40	単位
⑦入学・卒業/修了(予定)時期:	2015年	4月入学	2020年	3月卒業/修了	
⑧本学入学から卒業/修了までの期間:	5年		ヶ月間		
⑨留学時期を決めた理由:					

情報を知り、英語の資格などの準備を整えて留学したのがたまたまこの時期だったというだけです。

留学の準備

①留学先大学への入学手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

派遣の受け入れが決まると、UCDから留学に関する手続きのマニュアルや、その他必要な書類がメールで送られてきます。それに従って手続きをしていけば特に問題はないかと思われます。ただ、後述しますが、移民登録と家探しに関しては入国前から自分で手続きを進めておくべきかと思われます。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

アイルランド入国に際して、ビザは必要ありません。しかし、入国後90日以内に、現地の移民管理局にて、IRPと呼ばれる移民許可証を入手する必要があります。とにかくこのカートの登録のための予約が取りにくく、僕は予約できるまでに3か月を要しました。そのため、日本にいるうちから予約を試みておいたほうが無難かと思われます。現地には僕含め、予約が取れないうちに3か月たち、不法滞在者の身分になってしまっていた学生が数多くいました。また、銀行口座の残高証明書など、必要な書類は必ず日本から持って行ったり、現地で口座を作るなどして早めにそろえておきましょう。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

常備薬を留学前に多めに処方してもらいました。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

全学交換留学で勧められた付帯海学に入っていました。

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

僕の場合少し特殊で、留学と同時に転学の手続きも進めていました。なので、今は教育学部ですが、留学前は農学部への所属でした。留学許可願は両方の学部へ提出し、単位認定に関する書類は教育学部のほうに留学前に提出しました。試験に関してですが、留学先の授業が1月から始まるため最終週及びテストが東大で受けられず、そのためにレポートなどの代替措置をとっていただいたりしました。

転部と留学を並行して行ったために、両学科で多くの教授と面談したり、国際交流課や教務課でのやり取りを重ねました。今思い出してもかなり多忙だったうえ、多くの方にご迷惑をおかけすることになるのでお勧めはしません。

改めて、ご迷惑をおかけした皆様、誠に申し訳ございませんでした。

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)

IELTS6.5(各セクション6.0)がおそらくUCDが求める語学レベルの中で最も満たしやすい条件かと思われます。ただ、この各セクション6.0以上というのがなかなか曲者で、英語が苦手な僕はかなり苦労しました。日本人はWriting, Speaking が苦手だといわれているので、この二つを重点的に対策できる参考書などを購入して、確実に各セクションで6.0以上をマークできるようにしておくことをお勧めします。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

基本的に、留学に必要なものに関してインターネットなどで調べてそろえれば問題ないかと思われます。ここではいくつか特筆すべきことを挙げておきます。

- ・移民登録関係の書類は確実に持参し、なおかつ出発前から予約をするなど準備をしておきましょう。
- ・日本にいるときから英語のリスニングの勉強をしておくといいと思います。アイルランド英語はなまっているうえにとにかく早いです。
- ・家探しに関しても、日本にいるうちに終わらせておきましょう。寮に入れるとは限りません。

学習・研究について

①履修した授業科目のリスト(授業を履修した場合)

※そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったもの(又は行う予定のもの)に●をつけてください。

授業科目名	単位数	単位認定の申請	授業科目名	単位数	単位認定の申請
Music and words	5	●	Inequality in Ireand	5	●
Collectors of song and music	5	●			
Music in Ireland	5	●			
Music of the world	5	●			
Irish childhood	5	●			

②留学中の学習・研究の概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている授業等)

アイルランド音楽の授業を中心に履修しました。教育学部であることと、興味もあったので、アイルランドの子供に関する授業や、不平等問題に関する授業もとっていました。印象に残っているのは、アイルランド音楽の収集家に関する授業です。受講者は5人と少なかったのですが、その分教授への質問もしやすく、またクラスの仲もよかったです。アイルランド音楽がどのように収集され現在のようになり世界中に広まったか、その歴史をここまで詳しく学び、触れることができたのは、この音楽が生まれたこの国だけだったと思います。

③1学期あたりの履修科目・単位数、週あたりの学習・研究時間(授業時間・授業以外の学習時間)など

一コマは50分×2なので、東大の一コマ分とほぼ同じ長さです。一コマ当たり5単位として計算されていました。僕は週に6コマとっていたのですが、これ以上は単位制限にひっかかってしまうため受講することができませんでした。それでも、週休は4日あったので授業自体はかなり少ないです。ただ、よく言われることですが、宿題が多く出ます。累計でレポートは60枚以上書いたうえ、テストも中間テスト含めて6個ありました。ただ、個人的には好きな時間に自分のペースで勉強できたのと、レポートを書くのは得意なので、授業数が少なく自宅学習の時間が多いこのシステムはありがたかったです。予習復習は思ったほど必要ではありませんでした。

④学習・研究面でのアドバイス

自分でしっかり学習を進めることが求められるので、学習計画はきちんと立てておきましょう。

⑤語学面での苦労・アドバイス等

授業はスライドがあったり、またフォーマルな英語が使われるのでついていけたのですが、ディスカッションであったり、サークルなどでの(特に若い人の)会話は非常にしゃべるスピードが速く、全くフォローできませんでした。なので、日本にいるうちから洋画を見るなどしてネイティブスピードの英語に慣れておくとよいと思います。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

シェアハウスに住んでいました。大学の寮は人気で、一瞬で締め切られてしまいました。大学から勧められた家探しのサイトで家を探そうとしたのですが、多くの人が使っているらしく、ルームビューイングをしたい旨を送っても返事がもらえない家がほとんどでした。幸い、友達から教えてもらった日本人向けの家探しサイトで家を見つけることができました。

家賃は光熱費含めて月500ユーロとダブリンにしては大変安く(友達は1000ユーロ以上する家に住んでいました)また個室もしっかりありました。大学の寮は学生が使うため大変汚かったのですが、この家は住んでいる人が綺麗好きであったためいつもきれいでした。ブラジル人4人とベネズエラ人1人が住んでおり、彼らは英語が上手で、かつネイティブではなかったので、話すスピードもそれほど速くなく、聞き取りやすかったです。また、スペイン語やポルトガル語を教えてもらいました。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

アイルランドは一年を通して冷涼で過ごしやすいです。とはいっても、冬はやはり寒いので防寒対策はしっかりしていきましょう。雨はよく降るのですが、霧雨がほとんどで、僕はついに一度も傘をませんでした。フードのあるコートがあるとよいと思います。

大学は郊外にあり、のどかでとてもきれいでした。

主要交通機関はバスなのですが、このバスには時刻表がなく、大変不便でした。このバスの来る時刻を調べられる公式アプリがあるので、それを活用していました。不平等問題の授業でアイルランドが抱える問題について話した際、友達が真っ先に「バス！」と言っていたので思わず笑ってしまいましたが、現地の人にも不便なのだと思えます。また、このバスがとても揺れるので、酔いやすい人は酔い止めを日本から持っていきなり買うなりするべきかと思えます。

食事は、基本的に自炊していました。アイルランドに限らずヨーロッパは外食が高いです。ジャガイモ、ニンジン、玉ねぎなどの野菜や肉はあるので、よくカレーや肉じゃがを作っていました。与太話ですが、同じ食材で作れるアイリッシュシュチュウというアイルランドの伝統料理は作りやすくおいしいのでお勧めです。

お金ですが、僕は現地のクレジットカードを作って、現金と合わせて使っていました。一度日本のカードが誰かに不正利用されかけて使えなくなったことがあったので、カードは二枚以上持つとよいという時に便利です。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

それほど治安が悪いわけではないですが、週末は酔っ払いが多いです。また、ホームレスの方に小銭を盗まれた経験もあるので、あまり安全だと思込むのはよくないかもしれません。特にダブリンの中心を流れるリフィー川の北側は治安が悪いといわれているので注意が必要です。若者もやんちゃな子が多いので気を付けてください。

とはいえ、繰り返しになりますが、一般的にアイルランドは治安のいい国といわれているので、そこまで気にする必要はないかとは思いますが。

④留学に要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

・毎月の生活費とその内訳

1200ユーロ

家賃500ユーロ

食費200ユーロ(外食含む)

交通費、通信費100ユーロ

旅行費、娯楽費400ユーロ

・留学に要した費用総額とその内訳

7500ユーロ

家賃2500ユーロ

食費1000ユーロ

交通費、通信費500ユーロ

旅行費1200ユーロ

娯楽費600ユーロ

移民登録費300ユーロ

航空券往復600ユーロ

音楽関係費800ユーロ(バンジョーという楽器を買ったりCDを買ったりしました)

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

東京大学海外派遣事業の奨学金をもらっていましたが、僕は駒場時代の成績が悪いので月50000円でした(通常は月80000円もらえるそうです)。もっとしっかり勉強しておけばよかったかと思えます。

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

ほぼ毎日のようにアイルランド音楽のセッションに参加していました。教授も言っていましたが、音楽を勉強するのに一番良い方法は音楽に触れることです。最後のほうは演奏するたびにおごってもらえたり、そもそもミュージシャンとして飲食費が無料になっていたの、飲み物代には困りませんでした。ライセンスを取得できたので、暇さえあれば路上で演奏もしていました。

また、アイルランド音楽の大学のサークルにも入っていたほか、日本文化サークルに入って日本語を教えたりもしていました。

派遣先大学の環境について

①留学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

パーティやオリエンテーションなどが留学生向けに企画され、また困ったことがあれば何でもインターナショナルセンターの方が相談に乗ってくださいました。サポート体制は総じて良かったと思えます。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

大学の設備はとてもよかったです。図書館やPCはすべて使うことができました。ジムも無料でした。食堂もありましたが、少し高かったです。中心街から大学まで行くバスがたくさんあったのも良かったと思えます。

留学と就職活動について

①(就職活動を既に行った場合)留学が就職活動に与えた影響、メリット・デメリットなど

②(今後就職活動を行う場合)留学が就職に対する考え方に与えた影響

日本で必ずしも就職しなくてよいな、と思うようになりました。一緒に住んでいたルームメイトは皆アイルランドで働いていたので、アイルランドの労働環境に関して良いことも悪いことも彼らから聞いていたからかと思いますが、海外で働く、ということが以前より身近に感じられるようになりました。

③留学中の就職活動への対策など(もしあれば)

④就職が決まっている場合は、差し支えない範囲で就職先をお知らせください

- | | |
|--|--------------------------|
| | 1. 研究職 |
| | 2. 専門職(法曹・医師・会計士等)(職名:) |
| | 3. 公的機関(機関名:) |
| | 4. 非営利団体(団体名又は分野:) |
| | 5. 民間企業(企業名又は業界:) |
| | 6. 起業(分野:) |
| | 7. その他() |

留学を振り返って

①留学の意義、留学を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

僕は、「留学をしたい」と考えたことは一度もありませんでしたし、留学をしただけで圧倒的成長が遂げられるとはこれっぽっちも思っていませんでした。今も思っていません。日本にいても留学をしている人よりよほど多くのことを勉強したり豊かな経験を積める人は数多くいます。

それでも、日本以外の国でしか経験できないことが当然ですがたくさんあります。重要なのは、それをどのようにあなたの人生に生かすことができるか、またあなたの人生を支えるものとしてできるかだと思っています。

僕はひたすらアイルランドに行きたかった。アイルランドで大好きな音楽を勉強することは僕の大きな夢の一つでした。そして、アイルランドで経験したこと、アイルランドで出会って、またいつか会おうと僕を見送ってくれた何百人の友達、アイルランドという国とその文化、そのすべてが僕にとってかけがえないものとなりました。夢の土地であったアイルランドは、留学先として現実となった後も僕に夢のような日々を毎日見せてくれました。それは決して刺激的な生活があったというだけではありません。朝どこからともなく聞こえるカモメの鳴き声、昼下がりの大学の庭の木漏れ日、夜半のアイルリッシュパブの喧騒とその帰り道に橋から眺めたダブリンの夜景。そうした日常の景色の中に、僕の求めるものがあったのです。

100以上のセッションやライブ、ワークショップに通い、100曲以上の曲を学んできたこと。教授とセッションで偶然出くわし、セッションで演奏しながらギネスビールを飲み、アイルランド音楽について語り合ったこと。教授から最後の授業でアイルランドの曲収集家としての心得を学び、立派な一人の曲収集家として認めてもらえたこと。友達とアイルランドの果ての島で遭難し、妖精のような黒い犬が僕たちを助けてくれたこと。妖精伝承が残るアイルランドの田舎道で、「妖精注意」の看板を見かけたこと。路上演奏をして、最後には、一緒に演奏しようとして声をかけてくれる仲間ができたこと。ずっとあこがれていたミュージシャンと一緒にパブでのセッションで夜中まで演奏したこと。ルームメイトとひたすら酒を飲みサンバを踊ったこと。そのあと家で将来について皆で語り合ったこと。10か国以上を回っていろいろな景色を目に焼き付けてきたこと。それでもアイルランドに帰れば、「おかえり」と言ってくれる友達が、何百人もいてくれること。

そしてここに書ききれない多くの経験は、ひょっとしたら別の人には全く意味のないことかもしれません。僕はアイルランド音楽の演奏家として生計を立てる予定もないので、僕の就活や将来に関しても意味をなさないかもしれません。それでも、こうした経験、出会いが、僕の留学生活を、そして、この国で勉強をするという僕のことを支えてくれました。大学で勉強したことはもちろん、この五か月の暮らしの中で学んだすべてのことが、僕にとって一生の宝物です。

留学の意義、留学を通じて成長したこと、という問いに具体的に答えるときりがありませんが、一言でいえば「心に第二の祖国を持たせたこと」だと思っています。もちろん、半年弱暮らしただけの自分がアイルランドという国をすべて知れたとは思っていません。それでも、何かを考えるときに、日本人とアイルランド人の二つの視点を持ち、物事を考えたり価値判断ができるようになったのは、大きな成長だと思っています。

僕は留学には興味がありませんでした。それでも、アイルランドという国の存在が、僕を世界へと連れ出して、多くの人や見たことのない景色に出会わせてくれました。

僕はアイルランドという国で学ぶことができたことを、心から誇りに思っています。そして、悔いのない留学生活を送ることができたと心から思います。

②留学後の予定

今の学部で、教育心理学、臨床心理学、発達心理学、社会心理学について勉強をしていく予定です。院への進学を考えています。もしかしたら来年あたりにまたアイルランドに戻っているかもしれません。

③今後留学を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

せっかく留学するので、あなたが誰よりも留学を楽しめる、意味のあるものにできるという確固たる意志と理由を持って留学に臨めるとよいと思います。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

- ・UCDのウェブサイト
- ・Go Globalのサイト
- ・DublinBusのアプリ
- ・Skyscanner
- ・Googlemap
- ・MixB

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

